



第2章 基本構想



第1節 まちの将来像を考える上での大切な考え方 (基本理念)

本市におけるまちの将来像を検討するに当たり、特に大切にしたい考え方を次のように定めます。

また、この考え方は、まちづくりを進める際にも大切な考え方として捉えていきます。

① 誰もが安全・安心して過ごせるまちづくりを進める

市民一人一人が住み慣れた地域の中で、安全で安心して心豊かな生涯を過ごせる、また、本市への移住者及び観光客が安心して過ごすことができるまちづくりを進めます。

② 市民の知を結集し、全員参加でまちづくりを進める

本市のまちづくりの課題や市民ニーズは多様化していることから、市民、事業者及び行政、それぞれが知を結集し、まちづくりに取り組む多様な主体が連携する仕組みを構築することが求められます。市民が積極的に参画できる社会を構築するとともに、市民の創意工夫による活動を促進することにより、市民が持てる力を最大限に発揮し、想いを形にできる全員参加のまちづくりを進めます。

③ 地域の誇りである資源を保全し、磨き上げ、魅力的なまちづくりを進める

本市は、青い海と緑の山などの自然環境や火山の恩恵でもある湯量豊富な温泉など、豊かで多様な地域資源に恵まれています。地域の誇りであるこれら資源を保全するとともに磨き上げることで魅力的なまちづくりを進めます。

④ 心豊かな人を育む

社会情勢の変化が激しく、新たな時代に対応したまちづくりを進めるためには、“市民力”が重要になります。心と身体の健康づくり、互いを尊重し思いやりの心を醸成する教育等の実施により、健康で心豊かな市民を育むとともに、観光都市として本市を訪れる全ての方に笑顔を提供できるようおもてなしの心の醸成に努めます。

⑤ 多様なつながりと交流をまちづくりに生かす

住民と移住者との交流、市民の世代間交流、国際交流等、人と人、あるいは周辺市町や姉妹都市とのつながりと交流その他の多様なつながりと交流を生み出し、それらを育み、多様性を受け入れる土壌を醸成し、本市のまちづくりに生かしていきます。

⑥ 新しい時代に対応した持続可能なまちづくりを進める

Society5.0 の到来や SDGs の取組、人生 100 年時代構想等、我が国は新たな時代に突入しようとしています。デジタルの力を活用するとともに、自然環境や歴史文化等の本市ならではの魅力を守り、生かしながら、新たな時代に対応したまちづくりを展開します。



第2節 まちの将来像

まちづくりを進めるための考え方を踏まえ、伊東市が目指す将来像を次のように定めます。

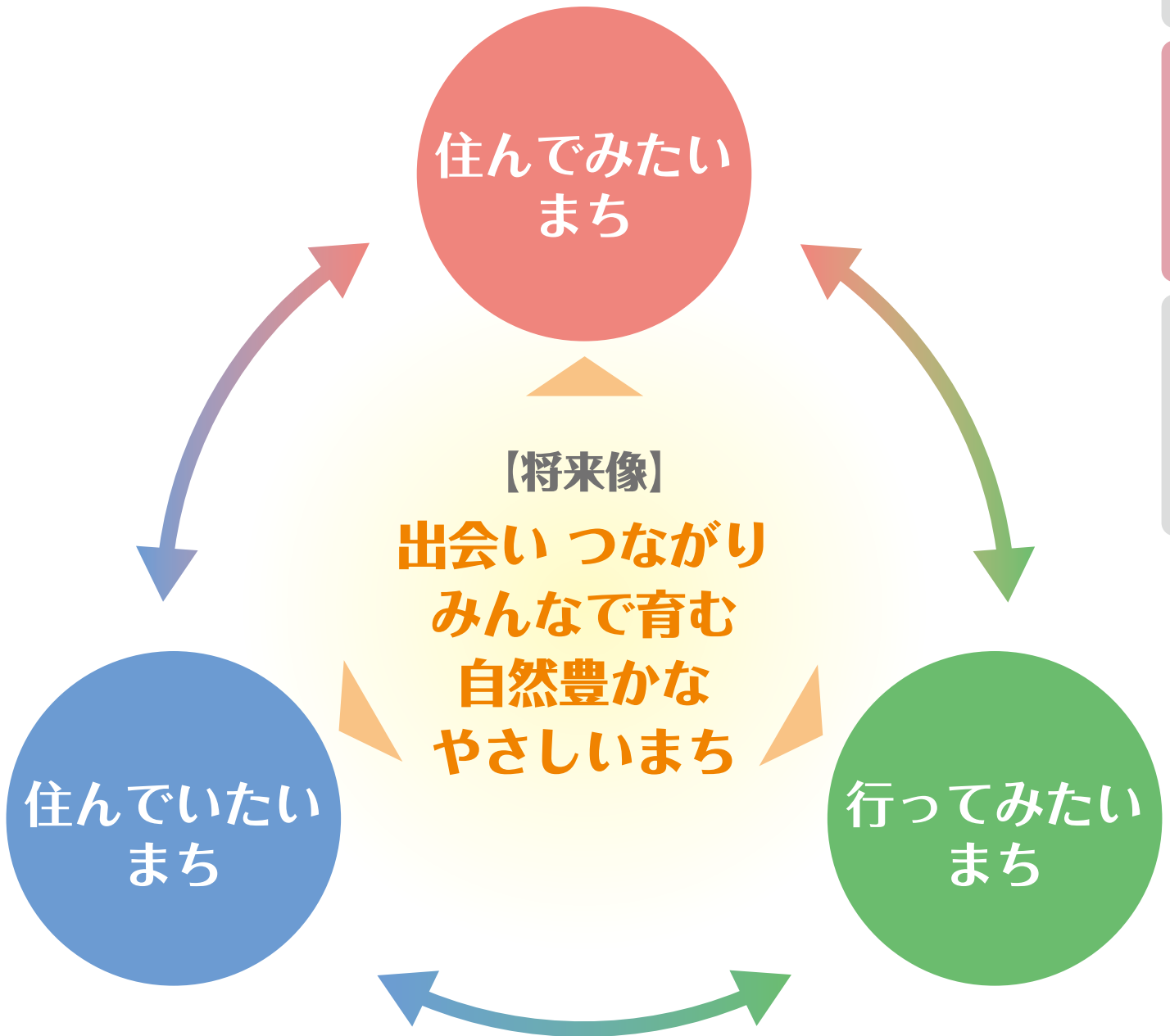
出会い つながり みんなで育む 自然豊かなやさしいまち いとう

～行ってみたい 住んでみたい 住んでいたい まちづくり～

本市の持つ恵まれた自然景観や温泉を始めとした観光資源、また、文化財や郷土芸能を始めとした歴史文化資源等は、かけがえのない「郷土の宝」であり、「地域の心」です。

これら「郷土の宝」や「地域の心」を通じて、市民及び観光客、移住者等の多様な人々が本市で出会い、つながり、交流を広げ、認め合い、様々な考え方を柔軟に受け入れながら、本市の魅力を一層高めます。

市外に住む人からは「行ってみたい、住んでみたい」、市民には「住んでいたい」と感じてもらえるまちづくりを、全員参加で取り組んでいきます。

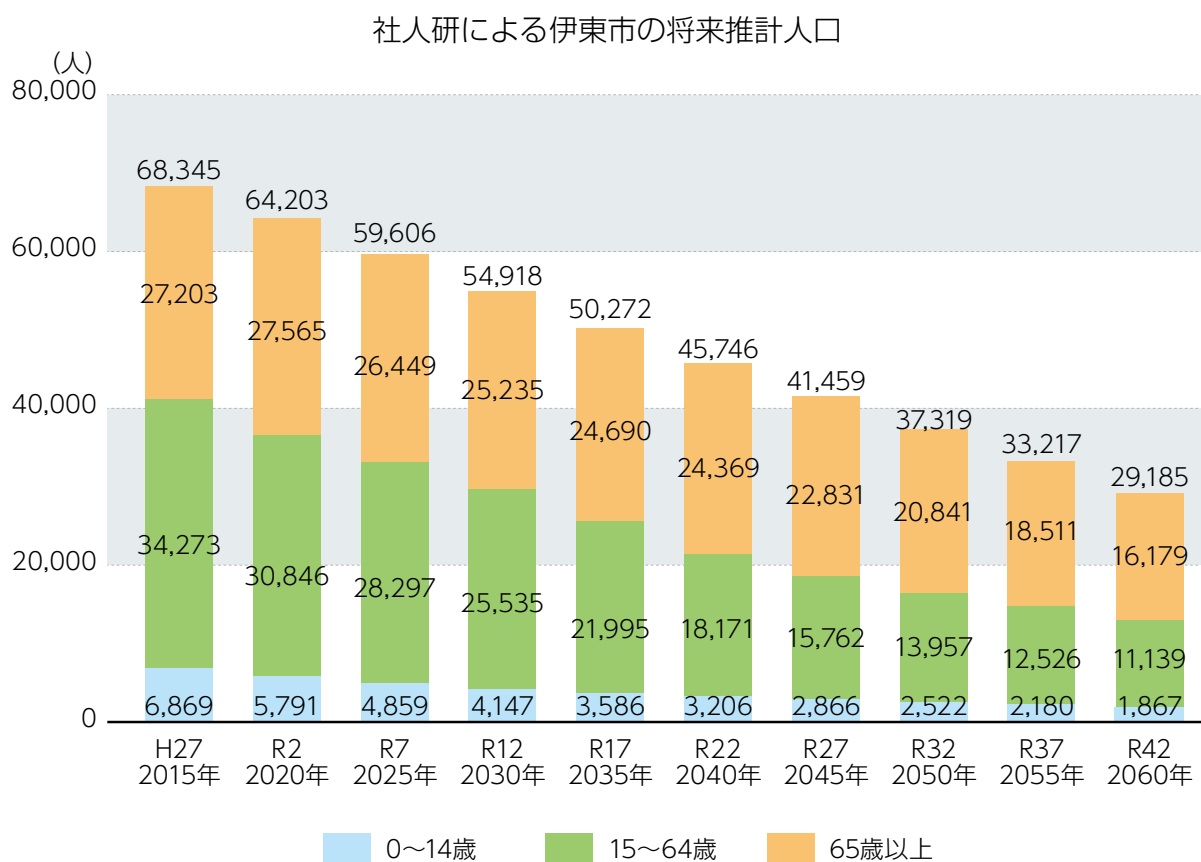


まちの将来像のイメージ

第3節 将来人口

(1) 将来推計人口

社人研では、伊東市の将来人口は減少し続け、令和12年(2030年)には54,918人、令和27年(2045年)に41,459人、令和42年(2060年)には29,185人まで減少することが推計されます。また、令和17年(2035年)には老年人口(65歳以上)の割合が生産年齢人口(15～64歳)の割合を上回ると推計されます。



	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
65歳以上	(人) 27,203 (%) 39.8%	27,565 42.9%	26,449 44.4%	25,235 46.0%	24,690 49.1%	24,369 53.3%	22,831 55.1%	20,841 55.8%	18,511 55.7%	16,179 55.4%
15～64歳	(人) 34,273 (%) 50.1%	30,846 48.0%	28,297 47.5%	25,535 46.5%	21,995 43.8%	18,171 39.7%	15,762 38.0%	13,957 37.4%	12,526 37.7%	11,139 38.2%
0～14歳	(人) 6,869 (%) 10.1%	5,791 9.0%	4,859 8.2%	4,147 7.6%	3,586 7.1%	3,206 7.0%	2,866 6.9%	2,522 6.8%	2,180 6.6%	1,867 6.4%
合計 (人)	68,345	64,203	59,606	54,918	50,272	45,746	41,459	37,319	33,217	29,185

※年齢別構成比率の値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。
 ※基準年は、平成27年10月1日現在の国勢調査人口

(2) 将来目標人口

伊東市は、本格的な人口減少社会が到来する中、まちの将来像である「出会い つながり みんなで育む 自然豊かなやさしいまち いたう」を実現するために、将来推計人口の結果を踏まえ、令和12年(2030年)における目標人口を60,000人と設定します。

また、将来の人口構成についても目標値として設定します。

■目標人口

	令和7年(2025年)	令和12年(2030年)
0～14歳	5,300人 (8.3%)	4,700人 (7.8%)
15～64歳	31,400人 (49.2%)	29,100人 (48.5%)
65歳以上	27,100人 (42.5%)	26,200人 (43.7%)
総人口	63,800人	60,000人



③松川



伊東の中心を流れる松川。遊歩道は岡橋から河口まで全長約1 km 続き、桜や柳などの樹木が植えられた敷石の歩道を湯の街情緒を楽しみながら歩くことができます。



竹でできた灯籠“竹あかり”を点灯させ、伊東市街地を統一した和の雰囲気演出しています。

松川遊歩道（約700m）と音無神社に、約400本の竹あかりを常時設置しているほか、令和3年3月には湯の花通り商店街にもエリアを拡大し、その規模は県内最大級です。

④一碧湖



「伊豆の瞳」と呼ばれ、周囲4 kmのひょうたん型の景観の美しい湖です。湖面に映る天城連山は、春には桜、秋には紅葉と四季折々の趣きを見せます。

（紅葉見頃）

11月中旬～12月中旬